

令和7年3月3日（月）令和6年度 第11号



さいたま市立泰平中学校

学校だより

さいたま市北区本郷町 1991 電話：048（651）4134

【教育目標】

豊かな心を持ち実践力のある生徒の育成

【目指す生徒像】

季節の花と明るい挨拶にあふれ、
生徒一人ひとりの夢と生きる力を培う学校

—大好きTAIHEI—

「さようなら」

校長 宮内和典

令和6年度も早いもので残り1カ月となりました。月日の流れは早く「1月往ぬる2月は逃げる3月は去る」という言葉の通り、新年を迎えてからあっという間に3月となり、今年度をまとめる月となりました。また、3月は「別れの月」でもあります。3年生は卒業し、それぞれが新しい場所に向かい、1・2年生は、今のクラスの仲間や担任の先生と別れ4月に進級し、教職員は4月に異動があります。この別れの時に「さようなら」と言いますが、今年度の離任式で「さようなら」の語源について話したことを生徒の皆さんは覚えていますか。

世界の別れの言葉は、3つに大別されるそうです。例えば、英語で考えると「Good bye」は「God be with you」からできているようで、神に願う意味をもった言葉、「See you again」は、「また会いましょう」という意味をもった言葉、そして、「Farewell」のように、「お元気で」という、健康を願う意味をもった言葉の3つの分類に大別できそうです。しかし、日本語の「さようなら」は、この3つのどの分類にも当てはまらず、その語源はというと、「然らば(しからば)」、「左様ならば」という接続詞にまで遡り、「そういうことならば」を意味する接続詞になるようで、接続詞を別れの言葉とするのは、言語の世界では、珍しいようです。かつて、「さようなら」は「今まではこうだったが、そうであるならば、この先はこのようにしよう」と意味を込めて使われていたようです。例えば、学校で生徒にかけている「さようなら」の意味を考えると、「今日も多くを学ぶことができましたか。そうであるならば、明日もまた、多く学びに来てください」となるのではと思います。日々の生活の中で使う「さようなら」の多くの別れは、また次も会えることがわかっているあいさつで、深く意味を考えて「さよなら」のあいさつをする人は少ないと思います。しかし、世の中には、時に望まない別れもあります。自分ではどうにもならないことにも、「左様であるならば」と感情を静かに抑え、事実を受け入れ、「あなた(たち)との時間はここで区切ります」と心に区切りを付け、一呼吸置いてその先へ進むために「さよなら」を言わなければならない時もあります。その日がくる前に、今、出会っている人たちを大切に、今が一番いいと思い、大切な時間を過ごしてください。そして、多くを語り思いを残さず、次に進めるように準備を進め、後悔がないように「さようなら」を言えるようにしていきましょう。

保護者の皆様、地域の皆様には1年間、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。生徒たちは、1年間の総まとめに取り組んでいます。進学・進級への大切な残りの日々、次年度も含めて変わらぬ御理解と御協力をよろしくお願いいたします。